

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	経済学入門 (Introduction to Economics)		
ナンバリングコード	E10103	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 基礎レベル 専門基礎
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 年 / 後期
必修・選択区分	必修:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E014953	クラス名	-
担当教員名	板倉 理友		
履修上の注意、 履修条件	はじめて経済学を学ぶ学生が対象です。特別な予備知識は必要としません。 出席を重視します。		
教科書	中谷武、中村保 著 『1からの経済学』 発行所:碩学舎、発売元:中央経済社		
参考文献及び指定図書	『キーワード入門経済学』 河村朗・高屋定美・阿部公一 著 嵯峨野書院 2001		
関連科目	日本経済事情、国際経済事情		

○基本情報		
授業の目的	経済学入門はこれから専門科目を学んでいく上で基礎となる科目です。経済活動は複雑な現代社会を構成している基礎であり、経済を理解することは社会を理解することにつながります。この授業では経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学を学ぶことで得られる抽象的な思考力、分析力を身につけることを目的とします。むずかしそうにみえる経済学ですが、実際は日々の生活ともむすびついており、経済学的なものの方、考え方ができることがこれから社会のさまざまな問題を理解することにつながります。	
授業の概要	経済活動とはそもそも何か、そして経済活動を研究する経済学がいつごろどのような人たちにより形成されたのかから講義をはじめ、その後経済学で重要な概念となっている市場、価格、需要と供給について15回の授業で学んでいきます。経済学の基本用語が理解できるとともに、需要曲線・供給曲線による分析と市場と政府の関係、家計の消費行動の分析、マクロの経済活動、そして不況と失業問題の解決がおもな内容です。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	身近な経済現象に興味をもち、需要・供給の側面から考えることができる。	10点	10点	
【知識・理解】	経済学がとりあつかう基本的な内容を理解できる。上位学年で学ぶ経済学専門科目の基礎を習得する。	20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	用語の説明や分析を文章および図により書くことができる。			20点
【思考・判断・創造】	経済学の考え方を理解し、現代の経済問題を経済学的な思考で理解できる。	20点	10点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
・レポート、試験等を含め、総計60点以上で合格です。 ・レポートを課した後の授業の中、もしくはクラスルームでレポートの講評・解説をのせます。				

○その他

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	経済学入門（Introduction to Economics） 板倉 理友	授業コード	E014953
学修内容				
1. 序章 経済学とわたしたち 経済学とは何か、経済学とはどのような学問かを知ることによって、経済学が私たちの生活どう関係しているのか、いかに深く結びついているのか等について学びます。				
予習	需要、供給、GDP、貨幣等の主要な専門用語について自分なりに調べてくる。			約2時間
復習	経済学と私たちの生活についてどう結びついているのか復習する。			約2時間
2. 第1章 分業の利益 「パン屋の夫婦」を例に分業の利益」について学ぶとともに、比較優位の原則と特価の利益から社会的分業と交換から利益が生じることを学びます。				
予習	比較優位の原則とは何かについて予習する。			約2時間
復習	比較優位の原則から生じる分業の利益について復習する。			約2時間
3. 第2章 需要と供給 需要の決定要因と需要曲線、供給の決定要因と供給曲線等について学びます。また、曲線の傾きと価格弾力性についてもその特徴について学んでいきます。				
予習	需要とは何か、供給とはどんなことか、自分なりに調べてくる。			約2時間
復習	価格が需要や供給にどのような影響を与えているのか等について復讐する。			約2時間
4. 第3章 価格メカニズム さまざまな財の取引と市場、取引の「場」としての」市場、市場価格とは何か、市場均衡価格と価格メカニズム等について学ぶとともに、市場価格の変化とその原因等についても学びます。				
予習	財、市場、価格メカニズム等の用語について調べてくる。			約2時間
復習	財と市場を介在する価格メカニズムの仕組みについて復習する。			約2時間
5. 第4章 市場の効率性 買い手の満足度と需要量の決定、最低販売価格と供給量の決定等における市場の課題と望ましさの基準、総余剰の最大化に焦点をおいた市場均衡の効率性について学びます。				
予習	市場の需給均衡性や総余剰とは何かについて予習する。			約2時間
復習	需要量と供給量の決定の仕方、市場の効率性について復習する。			約2時間
6. 第5章 市場の失敗 少数の取引者と取引価格への影響力、不完全競争の弊害や独占、および外部効果と効率的な経済活動について学びます。また、私的財と公共財の違いについても学びます。				
予習	不完全競争、独占、公共財について調べておく。			約2時間
復習	市場の失敗がどうして生じるのか、公共財の役目は何かについて復習する。			約2時間
7. 第6章 市場の限界 逆選択やモラルハザード等の情報の非対称性とその限界、また不平等と貧困をめぐる市場メカニズムと所得分配および不平等の程度を示すジニ係数について学びます。				
予習	逆選択、モラルハザード、ジニ係数について調べてくる。			約2時間
復習	情報の非対称性や不平等の発生等、市場には限界があることを復習する。			約2時間
8. 第7章 労働市場 労働市場においてどうしても発生する失業等で労働市場にはその機能には限界があること、また非正規労働者が多くなることによる格差が発生することを学ぶとともに労働市場を補完する政策について言及します。				
予習	日本経済において、非正規労働者が徐々に増加している現状を統計データで確認しておく。			約2時間
復習	労働市場において、近年増加し続けている非正規雇用労働者の重要性および市場補完政策について復習す			約2時間

○授業計画		科目名 担当教員	経済学入門（Introduction to Economics） 板倉 理友	授業コード	E014953
学修内容					
9. 第8章 GDPとは何か GDPに関するフロートストック、付加価値について国内概念を学ぶとともに、三面等価の法則（原則）、日本経済全体に関する経済循環図について学びます。					
予習		日本のGDPが、現在、いくらになっているのか予習してくる。			約2時間
復習		フロートストックの概念の違い、GDPの概念、三面等価の法則（原則）を説明できるように復習する。			約2時間
10. 第9章 何がGDPを決めるのか 国民生活の質とGDPを各国の1人当たりGDP、平均寿命、成人識字率によって検証し、生産能力の大きさは生産要素と生産技術によって規定されることを学び、GDPと需要の関係についても学びます。					
予習		発展途上国と先進諸国の実際のGDPデータについて予習する。			約2時間
復習		何が生産能力の大きさを決めるのか、需要とGDPはどのような関係にあるのかを復習する。			約2時間
11. 第10章 消費需要と投資需要 消費、投資とは何か、具体的な日本における消費と投資の推移がどうなっているのか、それが経済全体に占める割合を学ぶとともに、何が消費需要や投資需要をを決めるのかについて学びます。					
予習		消費と投資について、国が公表している実際の統計データを確認しておく。			約2時間
復習		消費需要、投資需要とは何か、何に影響されるのか等について復習する。			約2時間
12. 第11章 貨幣と金融 貨幣の交換手段機能、価値尺度機能、価値貯蔵機能等を学び、直接金融、間接金融等の金融等について学びます。最後に、貨幣乗数、信用乗数等を中心に金融政策の効果について学びます。					
予習		日本の中央銀行である日本銀行がどのようなことを行っているのか事前に調べておく。			約2時間
復習		貨幣の役割を中心に金融の重要性和金融政策の内容について復習する。			約2時間
13. 第12章 政府の役割 政府の経済的役割として、資源配分の調整、所得の再分配、景気安定化を取り上げます。また、政府予算における予算策定、歳入と歳出の内訳、国債発行等について学びます。					
予習		政府予算規模や国債発行額等について予習しておく。			約2時間
復習		政府の経済的役割、予算内容および国債発行等について復習する。			約2時間
14. 第13章 外国貿易と為替レート 貿易・サービス収支を中心に日本の貿易の状況、貿易とGDP、貿易の決定要因として所得と相対価格、交易条件等について学びます。そして、為替レートがどのように決定されるのかについて学びます。					
予習		日本の貿易額の移り変わり、GDPに占める割合等について予習する。			約2時間
復習		日本の貿易の状況、貿易の決定要因、交易条件等について復習する。			約2時間
15. 第14章 経済成長と国民生活 経済成長率の表し方、経済成長率の決定要因等を学びます。また、経済成長率の予測、寄与度分析も取り上げ、制度と経済成長においていかに経済成長が重要かについて学びます。					
予習		日本の近年の経済成長率がどのくらいになっているのかを調べておく。			約2時間
復習		経済成長と国民生活の向上がいかに結びついているのかをを復習する。			約2時間
16. 期末試験 ・期末試験時間は60分で、テキスト持込み可です。 ・成績評価はレポート課題等を含めて60点以上を合格とします。					
予習					
復習					